

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組
放送日：平成 26 年 7 月 23 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送：7 月 27 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 2 回放送 岩手県立磐井病院 加藤博孝 院長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

塩竈 さて、私たちが住んでいる一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護へ切れ目ないサービスを目指しています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーは、医療機関や介護施設それぞれの役割、また、その利用方法をご紹介します。医療・介護・福祉関係者とそして私たち市民が、ともにこのサービスなどについて理解、また協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

塩竈 さて、今日の地域医療のコーナーですが、私達も利用したこと多いんじゃないんですかね。県立磐井病院、この県立磐井病院の加藤博孝院長に今日はインタビューをしております。

塩竈 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日はスタジオに県立磐井病院の加藤博孝院長にお越しいただきました。加藤院長どうぞよろしくお願ひします。

加藤 よろしくお願ひします

塩竈 県立磐井病院と言いますと、ラジオを聴いている皆さんもそうかと思ひます。1 回くらいは行ったことがあるんじゃないかと。そういった病院ですけれども、この磐井病院について、加藤院長先生に紹介していただきたいと思ひます。

塩竈 加藤先生、この磐井病院ですけれども現在お医者さんの数は何人くらいになるんですか。

加藤 60 名位です。

塩竈 大人数。病院の中で 60 人という医師の数っていうのは、やはり大規模な方なんではないか。

加藤 いいえ。都市部に比べると少ないですね。都市部だと同規模だと、多分 70、80 名位ほしいところですよ。

塩竈 なるほど。患者さんの数、それからまちの規模にもそれぞれよるでしょうけれども、それでもやはり全国的な中でみるとお医者さんの数っていうのはあまり多くはないですね。看護師さんの数はどんな感じなんではないか？

加藤 看護師は 300 名位で、全職員で 510 名です。

塩竈 そうなんですか。この 510 人の皆さんでこの地域の医療をみなさんで支えていらっしゃるということですね。訪れる患者さんの数っていうところでみると、病床の数ではどうなんではないか。

加藤 病床は、稼働率がだいたい 85% くらいなので、だいたい、いつも 240~50 名位の患者さんが入院しています。

塩竈 そうですか。外来でいらっしゃる皆さんもあるかと思ひますけれども、来院する数っていうと。

加藤 外来はですね、ずいぶん減らしたんです。

それで、入院に特化するということで、以前1,000名以上あった外来数が、今500名くらいで推移しています。

塩竈 これはやはり、これまで磐井病院にというところにかかっていた皆さんの中で、そのお医者さんにかかることを磐井病院だけじゃなく、ほかのお医者さんのところにも診ていただいたりとか、そういう仕組みが出来るということですね。

加藤 そうですね。

塩竈 この磐井病院の特徴について、今日はいろいろとお話しを伺っていきたいと思うんです。先生、この磐井病院の歴史からまず伺っていきましょうか。

加藤 できたのが1949年なので、65年の歴史があります。

塩竈 そうなんですね。先ほどもお話しの中でありましたけれども、地元で何かこう大きな病気を相談という時には、パッと行くのが磐井病院かなっていう、そういったイメージがありますよね。それだけ、古くから多くの皆さんに親しまれていたというか、認知されていた病院なんですね。磐井病院のすごいところと言いますが、こういうふうに表示するのはあれなんですけれども、特徴的なところをぜひ教えてください。

加藤 地域の救急車の半数以上を受け入れているというところですかね。あとは「がん」とかある程度の高度医療をやっていまして、落ち着いた患者さんは、地域の開業の先生達になるべくお戻しするようにしております。

塩竈 なるほど。各それぞれのかかりつけ医のお医者さんから、この方は、高度な医療が必要だっというとき紹介を受けて、磐井病院に来ていただいて、そこで治療を受けて、今度は回復期になると、また、それぞれ病院に戻っていくという。

加藤 そうですね。あとは介護施設とか、そういうことも連携しながら、患者さんを地域全体で診るような考えで運営しています。

塩竈 なるほど。先ほどその医師の数ですとか、それから、働いている皆さんの数っていうのがありまして、やはり、それでも人数は多いほうではないというふうにおっしゃっていました。その中で、磐井病院の特徴っていうのを活かしていくとなると、利用する患者さん側のその利用の仕方っていうのもいろいろ求められそうですね。

加藤 できれば開業の先生にかかられている方達は、ぜひ紹介状を持ってきていただきたいですね。あと、あまり軽症の患者さんは、やはり、病院に来る前に地域の医療機関で診ていただきたいと思います。

塩竈 なるほど。それぞれのまた地域のかかりつけといいいますか、普段から身体を診てもらっているお医者さんのその判断で、その病院の方を利用するっていう、そういった流れが1番理想的ですね。この地域の中では、先ほどもありました磐井病院って、その名前も大変認知度も高いわけですけども、医療的なところの最後の砦といいいますか、こういったところっていうのもこの病院になっているんですね。

加藤 そうですね。ある程度の重症の救急までは診れるような体制とっています。ただ、中で超重症な患者さんは、仙台、盛岡に運ぶようなケースが年間50例くらいですかね、あります。

塩竈 地域医療支援病院という役割もこの磐井病院にあるということなんですが、先生この「地域医療支援病院」とはどういったものなのでしょうか。

加藤 地域の医療機関と連携して患者さんを診るってことです。例えば、開業の先生に、「開放病床」という5床あってですね、地域の開業の先生と病院の担当医と一緒に患者さんを診るような仕組みをつくっております。

塩竈 そうなんですか。これは、ある程度高度の医療をここで受けた後の、その回復期どのように今度はケアしていくかっていうのをそこを磐井病院の主治医さんとそれからその地元の開業医さんっていうのが一緒にそういうふうに診て、だんだん開業医さんのほうに移行させていくっていう取り組みですね。

加藤 そうですね。紹介いただいた患者さんを病院の医師と開業の先生と一緒に診るという仕組みです。

塩竈 そうなんですね。そうなると患者さんだけではなくて、地域のお医者さんにとってもこの磐井病院の存在っていうのは、すごく大事な場所なんですね。

加藤 そうだと思います。

塩竈 先生方が、何かそういった開業医の皆さんが、いろんな医療を学ばれるといいですか、いろんな研修受ける場合っていうのは、この病院ではあるんですか。

加藤 研修っていうか、一緒に患者さんの症例検討なんかは、月1回、地域の開業の先生と病院でやっています。主に紹介いただいた患者さんの経過を診ていただくということです。

塩竈 こういう、私達が普段かかっているお医者さんと地域の拠点となる病院という所が、このように連携されているっていう話を聞くとすごく住民にとってみると、心強い感じがありますね

加藤 ありがとうございます。

塩竈 この他ですが、研修医の受け入れというのも、この磐井病院では積極的に行っているそうですね。

加藤 はい。以前から、もう40年前以上から研修医を受け入れているんですけど、10年前に臨床研修が必修化になってですね、常時1学年

6人から8人くらいの研修医さんが、2年間の初期研修を磐井病院でやっていただいています。

塩竈 この病院を利用されている方、それから入院されている方もそうですけれど、そうなるって研修医の方といろいろそういった触れ合う機会っていうのも多そうですね。

加藤 そうですね。地域医療支援病院の関連で、地域の皆様に、あとは医療機関の医療従事者の皆様に開かれた研修会を年間12回以上は行っております。

塩竈 そうなんですか。こういったのもどんどん皆さん活用していただいて、よりその地域医療っていうものの大切さっていうのを学ぶ機会がここにあるわけですね。普段こう利用している病院ですけれども、その病院それぞれに役割があって、ただ利用する側っていうのも、とてもそういったところを意識しながらかかることが大事なんだというのが伝わってきます。先生、今日はですね、このコーナーにご出演していただいているんですけども、病院を適正に受診することがとても大事だっていうのをこのコーナーでは皆さんにもご紹介しているんですが、磐井病院の院長である先生から感じる、皆さんへのアドバイスですとか、それからご提案とか、こういったものをぜひお願いします。

加藤 やっぱり軽症の患者さん、軽症かどうか判断するのが難しいと思うんですけど、症状が軽い患者さんは、まず身近なかかりつけ医とか医療機関を受診していただいて、そのうえで、磐井病院での診療が必要な場合は、紹介していただくというふうな体制で、ぜひお願いしたいと思います。特に、地域では小児科医が少ないんですね。少ない例えば小児科なんか、あんまり病院に集中しちゃうと医師が疲弊しちゃいますので、ぜひ最初にその開業の先生を受診していただけたらなどと思います。

塩竈 よりスム - ズにその高度な医療を受けるためのそういった仕組みっていうのを皆さんそれぞれで認識して、自分に今必要になってく

るかどうかという、そういった気持ちをそれぞれ皆さん持っておくっていうのがやはり大事ですね。お医者さんの疲弊というのが全国的にも大変叫ばれてますけれども、どうでしょう磐井病院の中でそう感じるところってありますでしょうか。

加藤 ありますね。一番大変なのは救急なんです。当直体制があって、結構厚くはしているんですが、当直明けの次の日、働かざるを得ないような体制しか組めてないので、将来的にはもっと医師を増やして、医師に負担をかけないようにしたいと思うんですけど、なにせ医師がなかなか増えないもんですから。そうですね、当直のところがとても大変になっています。

塩竈 こういった先生達がですね、普段、日中には地元のその医療の高度なところを担っているっていうところを考えると、私達それぞれで先生のコンディションといいますが、いろんなものを加味して、その利用方法ってものをしっかり考えていかなきゃいけないんだなというのを感じました。今日はですね、県立磐井病院の加藤博孝院長にスタジオにお越しいただきまして、私達が普段からよく利用しています県立磐井病院、その磐井病院の特徴であったり、それからその地域における役割、そして利用する私達がどのようなところに心掛けていったらいいのか、こういったところをお話して伺いました。最後に今日はラジオを聴いている皆さんに先生から一言お伝えいただけますか。

加藤 最近は医療だけではなくてですね、医療・介護・福祉の連携というのが言われてて、高齢化率も多いものですから、やっぱり高齢者の医療も大事になってきていますけど、医療がどこまで必要かというところもあってね、やっぱり医療と介護と福祉の連携っていうのがこれからの大事な部分になろうと思います。

塩竈 これは実際に今、その介護というものに直面している世代だけではなくて、これから先、自分もそういった年齢になるというのは若い世代それぞれ皆さんは、必ず迎える道なわけです

から、今のうちからそういった知識をしっかりと身につけておくという、工夫っていうのをいろいろ、まちぐるみでつくっていくのが大事ですね

塩竈 いろんなお話を伺ってきました。今日の地域医療のコーナーですが、県立磐井病院の加藤博孝院長でした。加藤院長、今日はどうもありがとうございました。

加藤 どうもありがとうございました。